

AA1000APS(2008)の3つの基本原則に関する考え方

1. AA1000APS(2008)の3つの基本原則とは？

包括性の根本原則：ステークホルダーを充分に関与させているか

重要性：重要な課題をきちんと特定しているか

対応性：ステークホルダーの期待に充分に応えているか

2. 当社が、どのように個々の原則を適用しているか？

包括性の根本原則：富士フィルムグループは、自らのステークホルダーが誰であるかを認識し、各ステークホルダーに適したコミュニケーション・ツール^{※1}を持っています。これらのツールによって得られたステークホルダーのニーズを理解して、「富士フィルムグループのCSRの考え方」に則り対応しています。

※1：コミュニケーション・ツールの一覧は、ステークホルダー別にその対話の手段を整理 (<http://www.fujifilmholdings.com/ja/sustainability/communication/relationship/index.html>) しています。

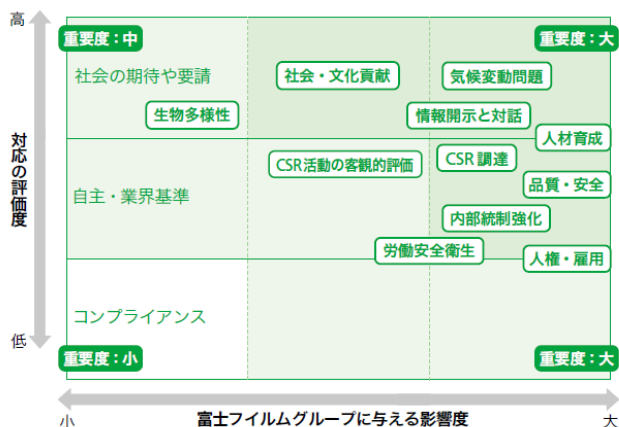
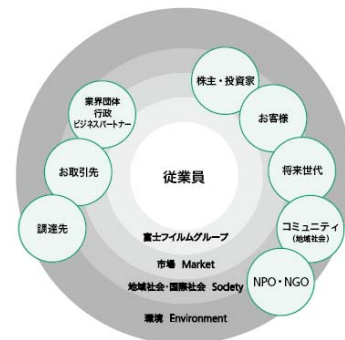
重要性：富士フィルムグループは、自らおよびステークホルダーにとって大切なこと^{※2}を、「富士フィルムグループのCSRの考え方」に則って定期的に重要課題等を見直し、「V80 - CSR戦略」に反映にして明らかにしています。

※2：「大切なこと」とは、社会が持続可能な発展をするために、富士フィルムグループが社会に貢献すべきことと考えています。

対応性：富士フィルムグループは、ステークホルダーの要請や期待に対して、「富士フィルムグループのCSRの考え方」に則り対応しています。その対応結果は、サステナビリティレポートやホームページなどの媒体を通じて、ステークホルダーに開示しています。

なお、富士フィルムグループのステークホルダーは、右図に示した通りです。

また、富士フィルムグループの重要課題は、「富士フィルムグループに与える影響度」と、法令順守から社会の期待や要請といった「対応の評価度」の2軸から、その重要性を下図のように位置付けています。



AA1000APS(2008)の3つの基本原則に関する考え方

3. AA1000APS(2008)の判断基準を満たしているか？

富士フイルムグループにおいて、AA1000APS(2008)の判断基準を概ね満たしているものの、次に示したようにCSR活動の進捗管理とステークホルダー・ダイアログに関して課題があり、今後は新・中期CSR計画である「V80-CSR戦略」を展開する中で、それらの課題を達成すべく、取り組んでいきます。

(1) CSR活動の進捗管理についての課題

富士フイルムグループが、2006年10月に持株会社制に移行後、約3年をかけて、法令順守から社会の要請（ステークホルダーのニーズ）を踏まえて、富士フイルムグループ全体のCSRの推進体制や各方針の整備を完了しました。この間、CSR委員会等を通じて、富士フイルムホールディングスの傘下企業である事業会社（富士フイルム、富士ゼロックスおよび富山化学工業）との連携がより密接に取れるようになり、また海外のグループ会社については、欧州並びに北米の地域本社の機能を強化して、地域の特性にあったきめの細かい環境保全活動（化学物質管理や温暖化防止対策）の展開や推進ができるようになりました。

2010年度以降、富士フイルムホールディングスでは、グループ各社のCSR活動の状況を把握^{※3}しながら、この4月から展開している新中期CSR計画「V80-CSR戦略」の重点課題に対する定量的な管理指標^{※4}を設定して、活動の進捗管理をしていく予定です。

※3：富士フイルムグループでは、日常業務でのグループ各社のCSR活動の把握以外に、2005年度には国内外の主要37社に対してアンケート調査（調査分野は、「ガバナンス・コンプライアンス」、「人事・雇用・次世代の育成」「労働安全衛生・防災」「リスク管理」「資材調達」「顧客対応」「環境保全活動」「社会貢献活動」の8分野）、さらに2008年度には中国現地法人6社に対してはアンケート調査及び現地調査（「企業の基礎情報」に加え、次の6分野：「環境管理」「労働安全衛生」「雇用・人権」「調達」「人材の育成」「社会貢献活動」）も実施しています。それらの回答結果を分析して、グループ全体でのCSRのレベルアップを図れるよう、「中期CSR計画（2007～2009年度）」に反映させました。

※4：環境情報については、管理指標を定めて、10年前から定期的に定量情報を収集して、既に活動の進捗管理しています。しかし、社会性（人材育成、人権など）の項目は、グループで共通の課題を設定してはいますが、事業構造の変化が激しいこと、事業が多岐に渡ることや、展開しているビジネスエリアがグローバルであることから、課題を達成するための具体的な定量分析可能な指標（管理指標：KPI）の設定に至っていません。環境情報と同様に、社会性の項目についても、グループ各社のCSR活動の状況を把握した上で、グループ共通の管理指標の設定を行い、継続的に進捗管理できるよう努めていく予定です。

(2) ステークホルダー・ダイアログについての課題

2004年より開催しているステークホルダー・ダイアログでは、他者と自己の認識差を縮めるべく、テーマを決めて、議論を重ねてきました。特に、環境保全活動をテーマにしたダイアログでは、「概念の整理」、「課題の抽出と共有」、「課題の深掘り」や「解決策出し」

AA1000APS(2008)の3つの基本原則に関する考え方

だけでなく、「解決策の客観的検証の場」にもなりました。環境保全活動の中でも『気候変動問題への対応』については、有識者と取り組みを推進する従業員が議論を重ね、活動の改善やグループ内の水平展開に加え、有効な情報開示のあり方を考える機会となり、さらにグループの長期目標の策定にもつながりました。また、『生物多様性の保全』についても、有識者だけでなく次世代を担う中高生との対話を通じて、富士フイルムグループが生物多様性の保全に貢献するために何を認識し行動すべきかを明確にすることにもつながり、少しずつですが、事業活動を通じて取り組んでいます。

富士フイルムホールディングスでは、新中期 CSR 計画「V80-CSR 戦略」の重点課題として、『ステークホルダーとのコミュニケーション』を設定しています。2010 年度以降は、今まで以上に CSR 活動を推進する各事業会社と協働し、計画的にステークホルダー・ダイアログのテーマを設定、ステークホルダーとの双方向のコミュニケーションを活発化させて、ダイアログの実施が富士フイルムグループにとって有益な場となるよう、活動する予定です。その際には、富士フイルムホールディングスが活用している「ステークホルダー・ダイアログ運用ガイドライン」を、各事業会社やその傘下の国内外グループ会社、工場・事業場が実施している地域対話集会等でも活用できるように見直すと共に、ステークホルダーからの意見が、計画並びに活動に反映できるような仕掛けをつくっていく予定です。

(3) AA1000APS(2008)の各基本原則における課題

上記の(1)と(2)より、富士フイルムホールディングスは、AA1000APS(2008)の各基本原則における課題は、次の通りです。

包括性の根本原則についての課題：

- ・ 富士フイルムホールディングスでは、海外のグループ会社についても、「企業理念」や「CSRの考え方」のさらなる浸透が必要であると認識しています。

重要性についての課題：

- ・ 富士フイルムホールディングスは、定期的に重点課題を見直していますが、例えば人材育成や人権に関する管理指標についてより具体的な設定をする必要があると認識しています。

対応性についての課題

- ・ 富士フイルムホールディングスでは、海外のグループ会社について、財務、法令遵守、環境関連及び雇用状況などを除き、ステークホルダーのニーズを理解して、「CSRの考え方」に則った対応を強化する必要があると認識しています。

以上